



多摩市 気候市民会議

第5回 まとめ・振り返り

2023年 7月 29日(土)

13:30~17:00 @多摩市役所



本日の資料

全スライド



市民提案（素案）



はじめに

- 注意事項
- 非常口の確認
- 記録撮影の承諾
- 欠席時の連絡等

1. 多摩市が脱炭素社会に向かうために、 様々な主体がすべきことを考える

この気候危機を私たち一人ひとりが当事者として捉え、「何をすべきか」、「何ができるか」そして「地域としてできること」、「行政や民間事業者がすべきこと」などについて話し合う。



2. 多摩市気候市民会議の提案をまとめる

脱炭素に向けた取組の提案を考える。

ご提案いただいた内容は、
「次期多摩市みどりと環境基本計画」の
具体の取組に反映していく予定です。

「多摩市みどりと環境基本計画」とは？

本計画は、第五次多摩市総合計画で掲げる目指すまちの姿のひとつである「人、自然、地球 みんなで環境を大切にすまち」の実現に向けて、みどり分野と環境分野が密接な関係にあることから、両分野の総合的な計画として策定するものです。

全5回の進め方

5/13

第1回：キックオフ

気候変動対策が進んだ先の、多摩市を考えよう

／
目指したい姿
＼

5/27

第2回

脱炭素に向けて 生活編

身近な生活の中でできる、
取組や工夫を考えよう

6/17

第3回

脱炭素に向けて 社会編

脱炭素に向けて、
まちに必要な
機能やしくみを考えよう

／
具体策
＼

投票

7/8

第4回

脱炭素に向けた取組

市民・行政・企業が協働のできることを考えよう

／
しゅくみ・体制
・広げかた
＼

本日

とりまとめ

7/29

第5回：まとめ・振り返り

とりまとめを確認しよう・気候市民会議を振り返ろう

第5回

とりまとめを確認しよう・
気候市民会議を
振り返ろう

本日の進め方

市民提案の確認

- 挨拶・目的と進め方 (10分)
- **これまでの振り返り・市民提案(素案)の共有** (20分)
- **グループ別意見交換**:市民提案のブラッシュアップ (50分)
- **全体共有** (20分)
- **全体議論**:市民提案のとりまとめ (30分)

休憩 (10分)

振り返り

- **チェックアウト**:振り返り・共有 (25分)
- おわりに
 - 今後の予定(10分)
 - 総評:山下紀明先生、棚橋乾先生、江守正多先生 (30分)
 - 市長挨拶、集合写真

前回の 意見交換の ふりかえり

詳しくは、
「開催レポート」を見てね ▶



前回のワークショップで行ったこと

しくみ・
体制・
広げ方

テーマ

市民・行政・企業が 協働でできることを考えよう

進め方

テーマ別に分かれて、2つのSTEPで議論しました

STEP 1

将来像や取組提案
の内容を確認し、
深める

STEP 2

実現に向けた
協働の体制や
プロセスを考える

ごみ・資源循環

グループ 2 テーマ **ごみ・資源循環** 多摩市環境市民会議 | 第4回 | 2023年7月8日(土)

私たちが候補市民会議は—— テーマに関する提言

まず何から始めるべきか? 最終的には何をめざすか? プロセスで大切にすることは?

環境のために3Rが大切というけれど、そもそも大量に出るごみは減らさないと3Rが成り立たない。**（減、生産）**が肝心でいい。
 1. 廃棄物削減は、工場やメーカー、流通・販売に責任がある。良いもの、壊れにくいもの、修理しやすいもの、長く使えるもの、リサイクルしやすいもの、環境に優しいもの、など、メーカーや流通・販売に責任がある。市民が選ぶときに、環境に優しいものを選ぶように促す。
 2. 廃棄物削減は、市民が選ぶときに、環境に優しいものを選ぶように促す。市民が選ぶときに、環境に優しいものを選ぶように促す。
 3. 廃棄物削減は、市民が選ぶときに、環境に優しいものを選ぶように促す。市民が選ぶときに、環境に優しいものを選ぶように促す。

提言の実現に向けたロードマップ

現在 2025年 2030年 2050年

市町村に連携して取り組むこと。市民・地域団体、企業、消費者の役割を明確にする。各団体の役割を明確にする。市民・地域団体、企業、消費者の役割を明確にする。

市長の役割や実現に向けての取り組み

ごみ・資源循環

STEP1 | 将来像・取組提案の内容を確認し、深めよう

| 30年後の環境・社会のイメージ | 取組提案 | ヒント |
|--|---|---|
| (1) 個人 > 不要になるものは買わない。ごみが出ることを減らす 【重 4.3、難 2.5】 | 必要になるものは買わない。ごみが出ることを減らす。 （例）不要になったものは捨てるのではなく、必要としている人に譲り、循環のサイクルを実現する 【重 4.1、難 2.5】 | イギリスでは事前活動のための中古品を販売するチャリティーショップがあり、ドイツには中古服を入れるボックスが街中にあります。 |
| (2) 個人 > プラスチック製品を減らした生活をする 【重 4.1、難 2.8】 | プラスチック製品を減らした生活をする。 （例）使い捨てを無くすためにマイ○○を使う 【重 4.0、難 2.5】 | |
| (3) 個人 > コンビニや自動販売機などを、ドリンクバーや給水機等に変えて、ペットボトルの消費を減らす 【重 3.9、難 3.4】 | コンビニや自動販売機などを、ドリンクバーや給水機等に変えて、ペットボトルの消費を減らす。 （例）使い捨てを無くすためにマイ○○を使う 【重 4.0、難 2.5】 | 上智大学では学内にウォーターサーバーが設置されています |
| (4) 個人 > ごみ箱を広くまちなかに設置して、しっかりと分別と管理をすることで、回収したごみを効率的にエネルギーに変換する 【重 3.8、難 3.1】 | ごみ箱を広くまちなかに設置して、しっかりと分別と管理をすることで、回収したごみを効率的にエネルギーに変換する。 （例）使い捨てを無くすためにマイ○○を使う 【重 4.0、難 2.5】 | |
| (5) 個人 > ペットボトル飲料はデポジット方式にする 【重 3.6、難 2.8】 | ペットボトル飲料はデポジット方式にする。 （例）使い捨てを無くすためにマイ○○を使う 【重 4.0、難 2.5】 | ドイツでは、多くのスーパーでビン、カン、ペットボトルを回収してデポジット分の割引券を受け取れる機械があります。 |
| (6) 個人 > 学校の牛乳のストローを無くす 【重 3.5、難 2.4】 | 学校の牛乳のストローを無くす。 （例）使い捨てを無くすためにマイ○○を使う 【重 4.0、難 2.5】 | 多摩市では給食の牛乳はビンに変わっていますが、お店や企業にも広げられそうです。 |

重要度 | 1: 全く重要ではない ~ 5: 非常に重要
難易度 | 1: すぐに実施できる ~ 5: 時間がかかる

住まい・暮らし・健康

3 テーマ 住まい・暮らし・健康

多摩市環境市民会議 | 第4回 | 2023年7月8日(土)

テーマに関する提言

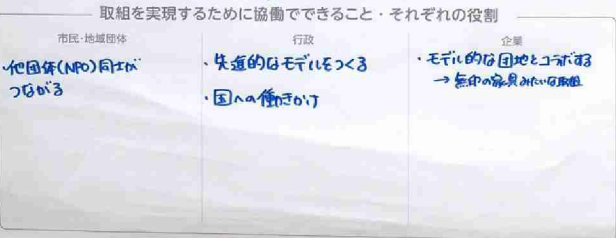
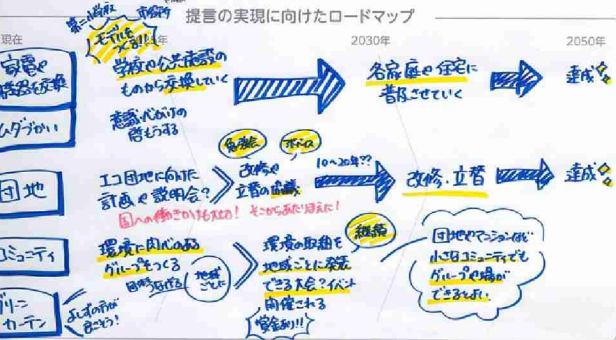
環境対策に関する義務化 (義務化)

環境対策が「新築」に限らず、環境インフラなどになる
最先端は多摩!!

安全で快適な住環境を実現して、高齢者を取りこぼさない

建物から変えることで、快適性、見栄えが上がる

暮らしのシシホ



住まい・暮らし・健康

STEP1 | 将来像・取組提案の内容を確認し、深めよう

| 30年後の環境・社会のイメージ | 取組提案 | ヒント |
|---|---|--|
| (3) 個人 > 電気のムダ使いにつながる行動を無くす (電気のつけっぱなしなど) [重 4.2、難 2.2] | 意識・心掛け | |
| (5) まち > 既存の団地を脱炭素・エコ団地に改造する [重 4.2、難 3.6] | 意識・心掛け 「まち」のイメージ 「まち」のイメージ 「まち」のイメージ | ゼロ・エネルギー・ハウスへの金利優遇を国・日本シテイ銀行が開始 |
| (1) 個人 > 家電や電気機器を適切に交換し、省エネルギーで効率が良い住まいにする (省エネ機器、センサーやタイマーの導入等) [重 4.1、難 3.1] | 省エネ機器 センサー タイマー 導入等 | 将来は太陽光発電と蓄電池で余った電気を隣近所でやりとりできる可能性も。 |
| (4) まち > 市が主導して百草団地などの古い団地を改修するなどし、脱炭素生活を送ることができるコミュニティや建物などをつくる [重 4.0、難 3.5] | 脱炭素生活 コミュニティ 建物など | 家や建物を売り買い、貸し借りするときに、エネルギーや快適性の情報をわかりやすく表示する例も。 |
| (2) 個人 > グリーンカーテンを育てて、住まいのエネルギー効率を上げる [重 3.7、難 2.9] | グリーンカーテン エネルギー効率 | ドイツのポツダムの団地では、エネルギー対策、貧困対策、地域活性化を同時に対策 |
| 健康的に暮らせるまち | | 深くて曲がるペロプスカイト型太陽光がもうすぐ販売され、壁面にも設置 |
| 環境と経済に優しい住まいに暮らせるまち | | |

重要度 | 1:全く重要ではない ~ 5:非常に重要
難易度 | 1:すぐに実施できる ~ 5:時間がかかる

エネルギー

グループ 4 テーマ エネルギー 多摩市気候市民会議 | 第4回 | 2023年7月9日 (土)

4 エネルギー

我々が気候市民会議は、テーマに関する提言
 多摩市内で再生エネルギー利用100%のまちを実現し、
 PDCAを大切に気候市民会議の現場での取り組みを
 大いに活用して、
 多摩市内で再生エネルギー100%のまちを実現

提言の実現に向けたロードマップ

現在 (2023年) | 2025年 | 2030年

- 多摩市内の小学校16校にソーラーパネルを設置する
- 多摩市内の太陽光パネル設置を促進する
- 多摩市内の太陽光パネル設置を促進する
- EVの充電設備を増設する
- EVの充電設備を増設する
- EVの充電設備を増設する
- EVの充電設備を増設する
- EVの充電設備を増設する

取組を実現するために協働のできること・それぞれの役割

- 市民・地域団体**: 省エネ住宅への転換、個人宅の太陽光パネルの設置、EVの充電設備を地域で共同利用可能にする(夜間充電)。
- 行政**: 小学校の屋根に太陽光パネルを設置場所以外に建設(自治体公共施設等)、個人宅の太陽光パネル設置に補助金制度を、交換促進、省エネ住宅(断熱2段階)を奨励する。
- 企業**: 省エネ住宅の自家発電、省エネ住宅の取組を促進する、校舎内(南側)にEVの充電設備、蓄電の奨励。

エネルギー

STEP1 | 将来像・取組提案の内容を確認し、深めよう

| 30年後の環境・社会のイメージ | 取組提案 | ヒント |
|--------------------|---|--|
| 脱炭素なエネルギーに転換しているまち | <p>(1) まち > 太陽光発電は、パネルの製造から廃棄までを考慮して 【重 4.5、難 3.2】</p> <p>(2) まち > 太陽光発電が広がる基準や仕組みをつくる 【重 4.3、難 3.2】</p> <p>EV充電設備の活用 水素エネルギーを活用している</p> | <ul style="list-style-type: none"> 東京都の「太陽光発電解体新書」や京大前教授の情報提供があるが、よりわかりやすくする必要も。 ドイツ・チューリング州では地域に貢献する太陽光発電や風力発電を認証 長野県上田市では家の屋根を貸し出す方と、太陽光に出資したい方を組み合わせる「相乗りくん」という仕組みがあります 屋根貸した、パネル貸 |
| 脱炭素なエネルギーを発電しているまち | <p>(3) まち > 太陽光やバイオマスなどを活用して地域でエネルギーを発電し地域で有効に使う、エネルギーの地産地消の仕組みをつくる 【重 4.2、難 3.3】</p> <p>(4) まち > 人が集まるところに楽しく発電できる機能づくりと仮想通貨「多摩環境コイン」で分かりやすく効果を見える化する仕組みづくりを行う 【重 3.5、難 3.2】</p> | <ul style="list-style-type: none"> デンマーク・コペンハーゲンには商業部焼却場かつ発電所である上に、屋上が人工スキー場であり、イベント会場である「コペンビル」があります ドイツ、フライブルク市の大学の夏祭りイベントでは、発電する自転車や DJ 音楽イベントを運営 |

学び・情報発信

テーマ **2050年の未来を想像し
工夫を凝らす**

多摩市気候市民会議 | 第4回 | 2023年7月8日(土)

6 学び・情報発信

私の気候報告は、テーマに関する...

【大切】気候市民会議の学びを大切に → SNSで発信して
【目標】自分の活動に変えていく力をつける → 学校と連携して
【仕組み】【早めやる】知3号法 → 気候市民 → 学校側・発信

提案は!

2030年 提案の実現に向けたロードマップ 2050年

STEP1 → STEP2 → STEP3

提言書を作成

提言書は、気候市民の意見をまとめて、市長や議員に提出する。SNSで発信して、多くの人に知ってもらう。学校と連携して、子どもたちにも伝える。

提言書の作成は、気候市民の意見をまとめて、市長や議員に提出する。SNSで発信して、多くの人に知ってもらう。学校と連携して、子どもたちにも伝える。

学び・情報発信

STEP1 | 将来像・取組提案の内容を確認し、深めよう

| 30年後の環境・社会のイメージ | 取組提案 | ヒント |
|---|--|--|
| <p>(3) まち 様々な視点で脱炭素の実現に向けた正しい情報・選択肢を市民、企業、行政で共有する (重4.4 難2.7)</p> <p>(1) 個人> まずは自分の生活のことを“知る”ことから始めて排出量を意識する (重4.3 難2.4)</p> | <p>目的意識の変動あり</p> <p>一人ひとりが気候変動対策を自分ごととして捉えている</p> <p>教育機関</p> <p>正情報</p> <p>幼稚園・保育園</p> <p>親学子のネットワーク</p> <p>高校生が感じる気候変動</p> <p>表現が気取られる</p> <p>誰にもWeb感と共有</p> <p>環境上のハードルを下げよう</p> <p>学校や教育機関と連携してやる(CO2)</p> <p>海外の視点を添える</p> <p>重要度 1:全く重要でない 2:重要 3:重要 4:重要 5:重要</p> <p>難易度 1:すぐに実施できる 2:実施に少し時間がかかる 3:実施に少し時間がかかる 4:実施に少し時間がかかる 5:実施に少し時間がかかる</p> | <p>小中・高</p> <ul style="list-style-type: none"> 米国、コネチカット州では学校で気候変動に関する授業が義務付けられ、テストも 環境に配慮した行動がポイントになるアプリは日本でも開発中、商店街と連携したイベントなどもあるかも <p>時</p> <p>重要度</p> <ul style="list-style-type: none"> ドイツ、フライブルク市は再生可能エネルギーの世界的な研究所があり、国際会議も開催されています |
| <p>(4) まち 脱炭素について知る・学ぶ・考える場やツールをわかりやすくコミュニティづくりにもつなげる (重4.1 難2.8)</p> | <p>教育の情報発信</p> <p>環境や気候変動について学び、情報発信を積極的にやっている</p> <p>表現が気取られる</p> <p>誰にもWeb感と共有</p> <p>環境上のハードルを下げよう</p> | <p>学校側での大変</p> <p>All of the things are done.</p> |
| <p>(2) 個人> SNSで多摩市気候市民会議を宣伝し、将来的に感度の高い市民が集まるように発信する (重3.9 難2.6)</p> | <p>表現が気取られる</p> <p>誰にもWeb感と共有</p> <p>環境上のハードルを下げよう</p> | <p>おこの提案</p> <p>おこの提案</p> |
| <p>(5) まち、多摩市大人の見学ツアーで「環境都市 多摩」をアピールする (重3.8 難2.7)</p> | <p>表現が気取られる</p> <p>誰にもWeb感と共有</p> <p>環境上のハードルを下げよう</p> | <p>おこの提案</p> <p>おこの提案</p> |

提言書は、気候市民の意見をまとめて、市長や議員に提出する。SNSで発信して、多くの人に知ってもらう。学校と連携して、子どもたちにも伝える。

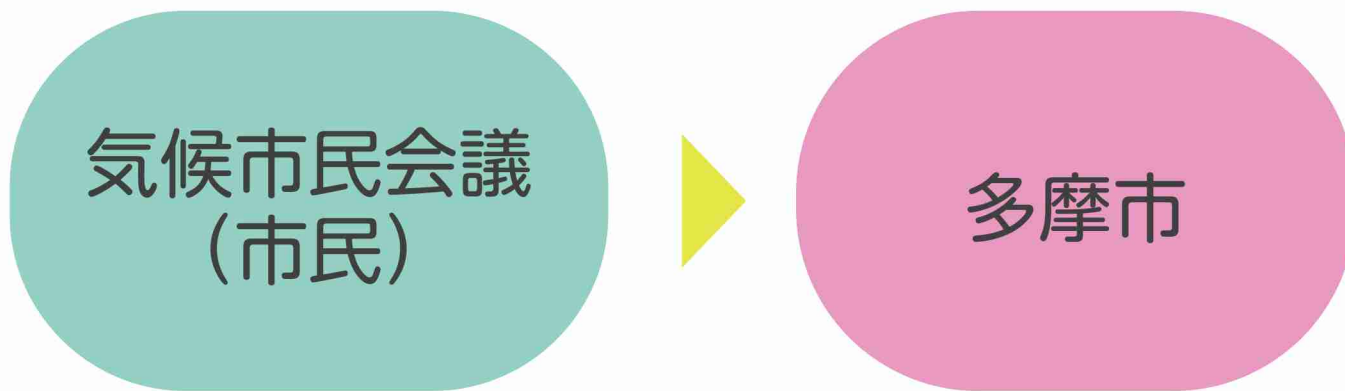
グループで
詳しく確認します

市民提案 (素案)

第4回の議論をもとに、
「市民提案」の素案として整理しました

市民提案とは？

誰から誰へ？



気候市民会議にご参加いただいた
みなさま(市民)から多摩市への提案

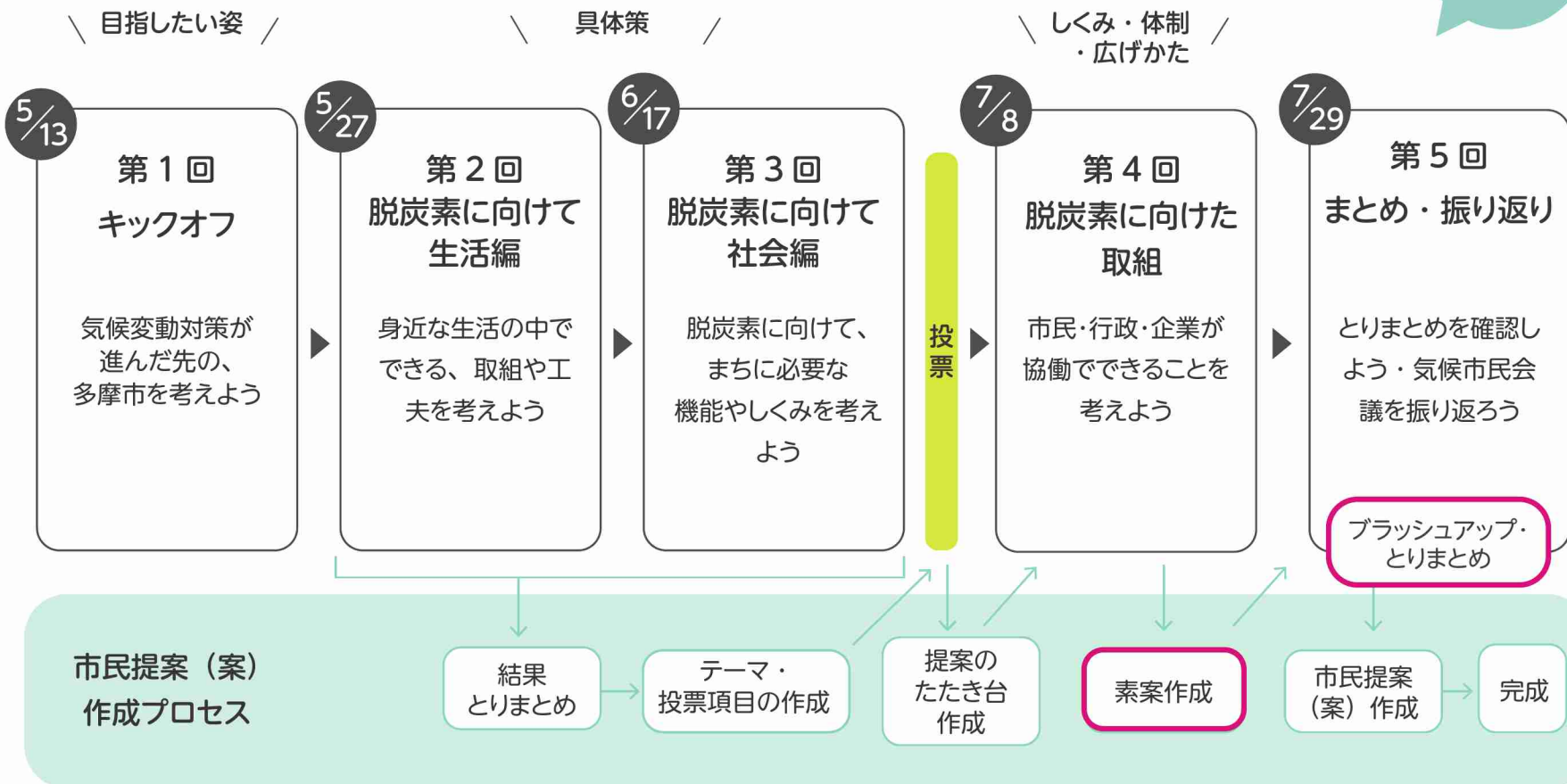
何を提案？

脱炭素に向けた取組

(「次期多摩市みどりと環境基本計画」の具体的な取組に反映)

とりまとめのプロセス

本日



ご確認いただきたいこと

文章や細かい表現は
本日の会議を踏まえて
修正します

今日は、内容について
ご確認ください

30年後に実現したい 環境・社会のイメージ

動植物・生態系が
豊かで、
人間と共存している



みどりや自然が豊か



みどり豊かな住環境が整った、

健康的に暮らせるまち



食やエネルギーの
自給率が高いまち



リデュース・リユース・リサイクル、
シェアが進んだ、
ごみや無駄なロスがないまち



環境と経済に優しい
住まいに暮らせるまち



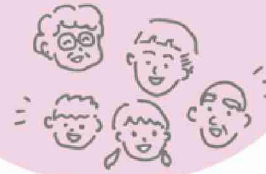
歩き・自転車で暮らしやすい、
コンパクトなまち



CO₂を排出しない
手段で移動している



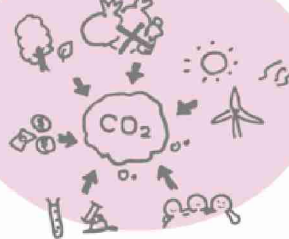
楽しく、笑顔で、
心豊かに過ごせるまち



若い世代に選ばれる
まちになっている



みんなで協力して緑の保全や
気候変動対策に取り組んでいる



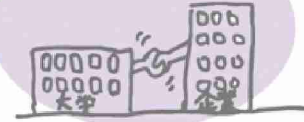
ライフスタイルがまちの
ブランドになっている



一人ひとりが気候変動対策を
自分ごととして捉えている



企業や大学等との連携を活かして、
気候変動対策を加速させている

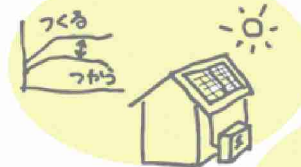


小中学校から

環境や気候変動についての教育が充実し、
情報発信を積極的に行っている



エネルギー消費が少なく、
エネルギーをためているまち



脱炭素なエネルギーに
転換しているまち



脱炭素なエネルギーを
発電しているまち



*各将来像を表すイラストを掲載予定

*現時点では下書き（ラフ）

多摩市気候市民会議による

「市民提案」

私たち多摩市気候市民会議は、脱炭素に向けた取組を進める上で以下の4つの点を大切にすることを提案します。

全体方針

1. 脱炭素の実現とともに豊かな暮らしを実現しよう

- ・ 気候変動対策をすることで、みんなが笑顔になる
- ・ 楽しい気持ちで、我慢せずに継続できる対策を進める

2. みどり豊かな環境を活かそう

- ・ 多摩市の魅力でもある「人工と自然の緑」を楽しみながら活用する
- ・ 人間と動植物が共存しつつ経済が発展しているまちに

3. 協働で実施しよう

- ・ 地域コミュニティが世代を越えて、緑の保全や管理、気候変動対策を推進する
- ・ 住民、企業、行政など様々な主体がそれぞれの役割を果たすとともに、協力しながら一緒にまち全体に対策を広げる

4. みんなが誇りを持てるまちにしよう

- ・ 気候変動対策で若い人に「住みたい!」と思ってもらえる多摩市に
- ・ 多摩市の暮らしを、クールでかっこいい新たなライフスタイルとして広げていく

さまざまな取組を検討し、取組を以下の7つのテーマに整理しました。多摩市で脱炭素の実現に向けて、実施すべき具体的な取組をテーマごとに提案します。

テーマ別の提案

p. 5 食・消費

p. 13 移動

p. 7 ごみ・資源循環

p. 15 教育・情報発信

p. 9 暮らし・住環境

p. 17 イノベーション・研究・新技術

p. 11 エネルギー

テーマ別提案ページの読み方

左側のページ

テーマごとの提言の概要、
ロードマップ、協働の役割

右側のページ

将来像と具体的な取組提案

たくさんのアイデアの中から、投票や評価アンケートを通じて重要な取組を精査し、さらに議論を重ねて具体化した取組を提案しています

多摩市気候市民会議とは

無作為抽出で選ばれたさまざまな年代の市民が集まり、多摩市の脱炭素に向けた取組を考えた。

専門家から学びながら、全5回の議論を通じて、個人としてできる取組や工夫から、まちに必要な機能まで、さまざまな取組を検討。

目指したい30年後のまちの姿の実現に向けて、気候市民会議として大切にすべきと考える全体方針と、7つのテーマ別の具体策をとりまとめた。

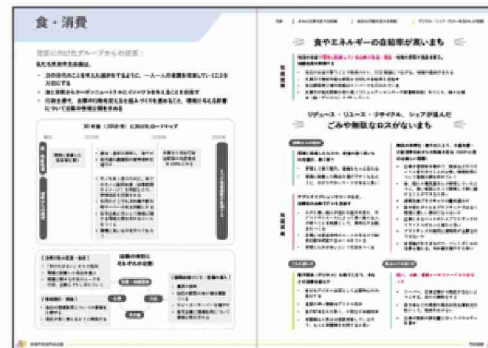
市民提案とは

多摩市気候市民会議を通じて、脱炭素に向けた取組のアイデアをたくさん出し合った。

提案では、その中から気候市民会議がとくに重要だと思った内容を、投票や評価アンケートを通じて整理したものを提案している。

市民提案に記載されなかった内容については各回の資料編として取りまとめている。

市民提案の作成プロセスについてはP21~22を参照



取組提案のカテゴリ

参加者の評価による分類

まちと企業を変える取組
重要度：大 難易度：大

身近な行動を変える
重要度：大 難易度：中

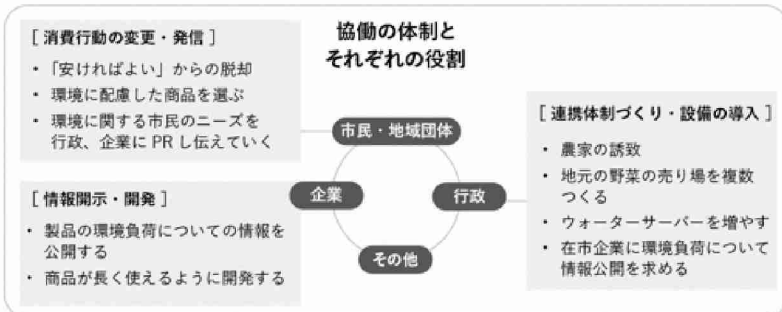
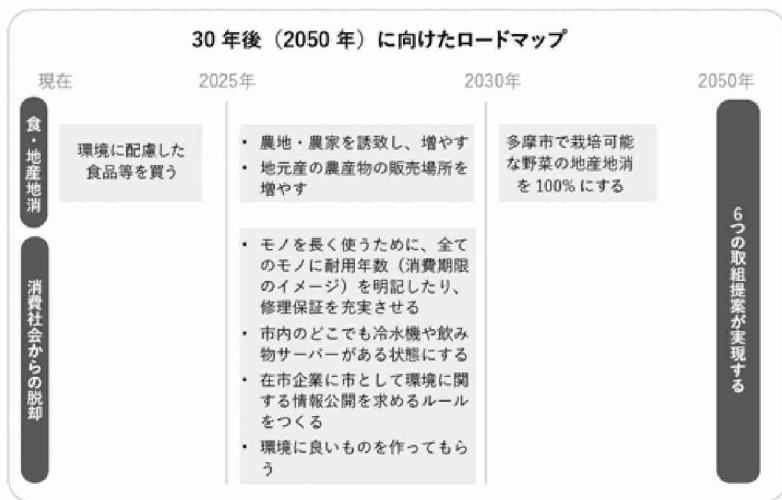
デジタル・シェア・スローを活かした取組
重要度：中 難易度：中

具体策の評価結果についてはP19を参照

提言に向けたグループからの提案：

私たち気候市民会議は、

- ・ 次の世代のことを考えた選択をするように、一人一人の意識を改革することを大切に
にする
- ・ 食と消費からカーボンニュートラルにインパクトを与えることを目指す
- ・ 行政主導で、企業の行動を変える仕組みづくりを進めること、環境に与える影響
について企業の情報公開を求める



食やエネルギーの自給率が高いまち

取組提案

地元のお店で環境に配慮している企業の食品・商品・地域の野菜や食品を買う。
地産地消を実現する

- ・ 地元のお店で買うことで物流コスト、CO₂削減につながる。地域の経済がまわる
- ・ 多摩市で栽培可能な野菜は100%の自給率を目指す
- ・ 地元野菜売り場の取組はスーパーでも行われているので、**広げる**
- ・ 多摩市が地元野菜の売り場（コミュニティセンターや図書館併設）をつくり、様々な媒体（紙・デジタル）でPRする

リデュース・リユース・リサイクル、シェアが進んだ ごみや無駄なロスがないまち

取組提案

過剰な消費からの脱却

環境に配慮したものを、愛着の湧く良いものを選び、長く使う

- ・ 修理して使う魅力、価値をもっと伝える
- ・ 環境に配慮した商品を選びやすくなるように、わかりやすいマークをつくる

サブスクリプションやリースなどで、消費型の企業モデルを見直す

- ・ わざと買い換えが進む仕組みを変え、サブスクやリースによって長く様々な人が使うことを前提として、長持ちする製品をつくる
- ・ 家電には部品保持のルールがあるので耐用年数を明記するルールをつくる
- ・ 修理した方が安いという状況をつくる

製品の長寿化・耐久化により、大量生産・大量消費社会からの転換を図る（GDPが変わる新しい指標）

- ・ 企業が透明性を高めて、部品などのリサイクル率を示すことが必要。環境負荷について情報公開を求めていく
- ・ 昔、個人の電気屋さんが修理していたように、長い保証に入って修理して、長く使い続ける
- ・ 過剰包装プラスチックの量を減らす
- ・ 詰め替えボトルもプラスチックではなく環境に優しい素材にする
- ・ 企業によるペットボトルプラスチックのリサイクルをさらに進める
- ・ プラスチックの使用に規制等が必要なのではない
- ・ 自販機が多すぎるので、ペットボトルの消費も増える。冷水機を増やす

ごみを減らす

電子媒体（デジタル）を使うことで、本などの消費を減らす

- ・ 基本をデジタル出版として必要時にのみ紙化する
- ・ 速度の早い情報はデジタル向き
- ・ 紙が好きなのも多く、小説などは紙向き
- ・ 図書館も人気本は複数用意しているので、もっと図書館を利用する

食品ロスを無くす

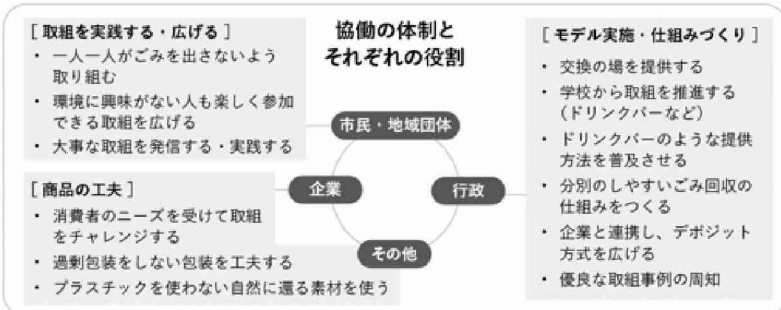
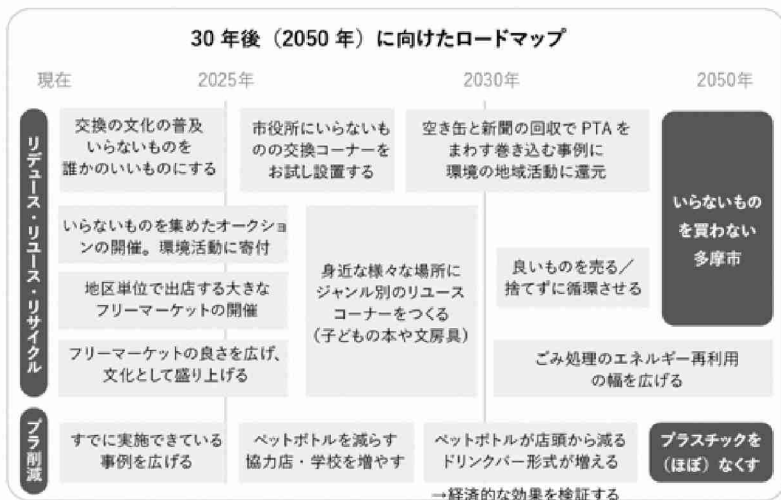
個人、企業、産業レベルでフードロスをなくす

- ・ スーパー、百貨店等から残菜が出ないようにする。出たら飼料化する
- ・ 恵方巻などの季節の商品は完全事前注文制として、残菜を出さない
- ・ 企業の残菜の排出量に対してペナルティを課す

提言に向けたグループからの提案：

私たち気候市民会議は、

- モノを大切にできる気持ちを持って生活し、自分・家庭から行動することを大切にすること
- 企業は、プラスチックや捨てやすいモノの製造・販売を見直し、環境に優しい素材を使った良い物をつくることを求める
- 行政は、モノの交換やプラスチックフリーなライフスタイルを身近な場所でも実現できる環境づくりを公共施設から初め、市内に広げる
- 市民はフリーマーケットや、リサイクル活動を文化として良いものを次につなぐ精神で輪を広げていくことを目指す



リデュース・リユース・リサイクル、シェアが進んだ ごみや無駄なロスがないまち

3R：リデュース・リユース・リサイクル

不要になるものは買わない。ごみが出ることを減らす **[リデュース・リサイクル]**

- まずはごみを減らすことが大事
- ごみの削減がCO₂の削減につながる
- 必要な分だけ買うようにする
- 出してしまったごみはしっかり分別する
- 消費が減っても成り立つ経済が必要

ごみ箱を広くまちなかに設置して、しっかりと分別と管理をすることで、回収したごみを効率的にエネルギーに変換する

- 高齢者や障がいのある方などの雇用にもつながり、セーフティネットのようなものになる
- 学校から試してみる
- ごみ箱を増やすとごみが増える可能性もあるので、慎重に進める
- 買ったラベルやキャップをすぐ分別して捨てられるごみ箱の設置
- そもそもラベルがない商品にする

不要になってしまったものは捨てるのではなく、必要としている人に譲り、循環のサイクルを実現する **[リユース]**

- 使いたい人に譲る、寄付をする、リメイクする
- まわりに必要としている人がいない場合は公共施設に設置されている回収場所を活用する
- 子ども服などを地域で交換できる場をつくる（フリマサービスのような代価のある交換も活用する）

取組提案

使い捨てプラスチックの削減

プラスチック製品を減らした生活をする

- 詰め替え用の製品にしてボトルは再利用することでプラスチック消費量を減らす
- プラスチックで過剰包装されたものは選ばない
- 減らすのはもちろん、長持ちする素材や自然に還る自然素材でつくっているものを買う
- 個人の消費行動で企業を変える。意識のある消費者を増やし、取り組む企業を増やす

コンビニや自動販売機などを、ドリンクバーや給水機に変えて、ペットボトルの消費を減らす

- 使い捨てボトルではなく、マイボトル等に好きなドリンクを給水できるしくみをつくる
- 学校、行政や大企業主導から始めることで、インパクトを狙う
- 多少有料でも良い

使い捨てをなくすためにマイ〇〇を使う

- 〇〇＝箸、瓶、容器・弁当箱、袋、ストロー、水筒など
- 既存のものでマイ〇〇を用意して移行する

リサイクルを促すために、ペットボトルもデポジット方式にする

- 自動販売機の横に返金される機能やポイント機能が付いたリサイクルボックスを設置する
- 分別しやすくなる仕掛けにする
- 一部商業施設では既にも実施しているので普及させる

学校の牛乳のストローをなくす

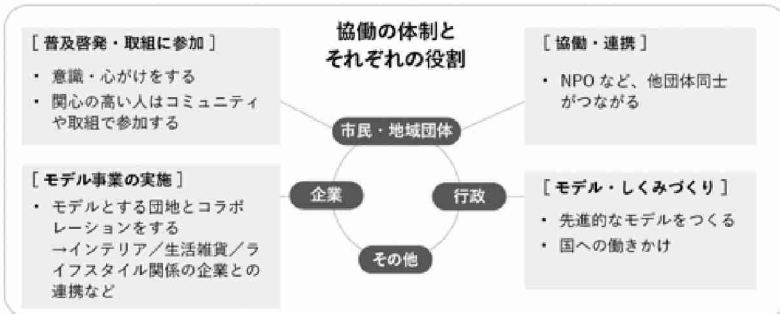
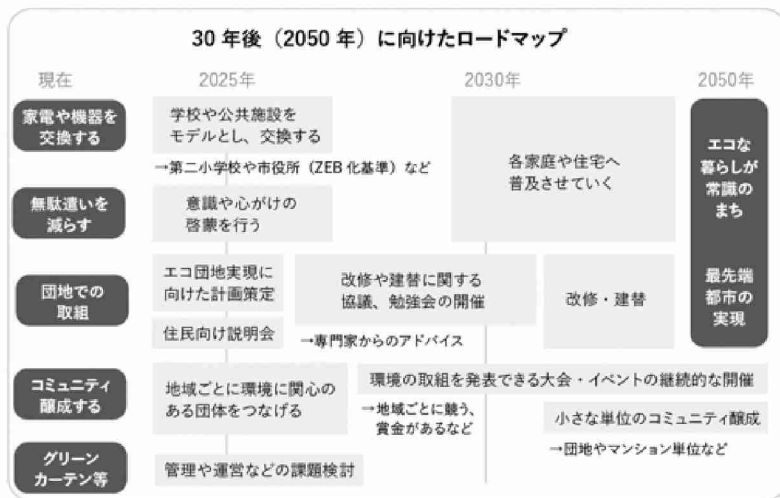
・

→市立小・中学校ではすでに使い捨て容器から牛乳瓶に変更されている。どう広げるか？

提言に向けたグループからの提案：

私たち気候市民会議は、

- ・多摩市が環境における最先端都市となり、エコな暮らしが常識であるまちを実現する
- ・市民1人1人の意識が高まるようなコミュニティを育む
- ・公共施設等の建築物から環境対策に取組み、まちとしての変化を見える化させる
- ・生活基盤である住宅等の建築物への対策を徹底することが社会へのインパクトをもたらし、建築物における環境対策の義務化を行う



環境と経済に優しい住まいに暮らせるまち

住まいの省エネ

電気や水道水などの無駄遣いにつながる行動をなくす

- ・意識・心がけをする
- ・電気のつけっぱなしをしない
- ・水の出しっぱなしをしない

家電や電気機器を省エネ対応のものへ適切に交換し、エネルギー効率が良い住まいにする

- ・すでに学校や公共施設では人感センサーのものに切り替わっている場所がある
- ・電気などの無駄遣いを解決する手法の1つ
- ・モデルをつくる

取組提案

団地改修

脱炭素生活を送ることができるエコ団地・集合住宅に改修し、環境について話せるコミュニティグループを醸成する

ハード：

- ・市が主導して、既存の団地を脱炭素生活を送ることができるエコ団地に改修する
- ・団地の中にも都営、UR、分譲などの種類があり、意思決定が異なるため、意思決定は丁寧に行う（分譲の場合、区分所有者の80%の賛成が必要になる）
- ・棟ごとに改修を進めていく
- ・バリアフリー法のように、これからの建築・改修において、省エネや環境配慮が必要な条件となるように義務化する
- ・学習ルーム、ゲストルームなどの共有スペースを増やすことで、各家庭でのエネルギー使用量を減らし、運用には再生可能エネルギーを活用する
- ・モデルと位置付けると企業に関わりやすくなる

ソフト：

- ・団地や集合住宅の係のなかに、水や電気などから環境について継続して考える担当をつくる
- ・多摩らしさのあるモデル的な環境コミュニティをつくる
- ・居住者向けのフリーマーケットやガーデニング、シェア農園（屋上菜園）などを取り組む
- ・大規模な団地では、敷地内をシェアサイクルなどで移動できるようにする
- ・エネルギー効率がよかったり、自給自足だったり、エコな暮らしが当たり前になる
- ・結果、エコな暮らしの方が豊かな暮らしをおくれるようになる

【関連テーマ：
ごみ・資源循環、移動】

みどり豊かな住環境が整った、健康的に暮らせるまち

- 緑が豊かな環境をつくることで、空気もクリーンで健康づくりにもつながる
- 管理の行き届いた緑の保全により、熱帯夜などの過ごし方も変わり、健康的に暮らせる

取組提案

グリーンカーテンを育てて、エアコンの温度を上げるなどに取り組むことで住まいのエネルギー効率を上げる

- ・太陽光を遮って部屋の温度を下げる。育てることにより、自然への気付きを得る
- ・日々のメンテナンスも大切で、育てた後の片付けも大変になる
- ・蜂が巣をつくる課題もあるが、葦簀（よしず）の方が管理がしやすい

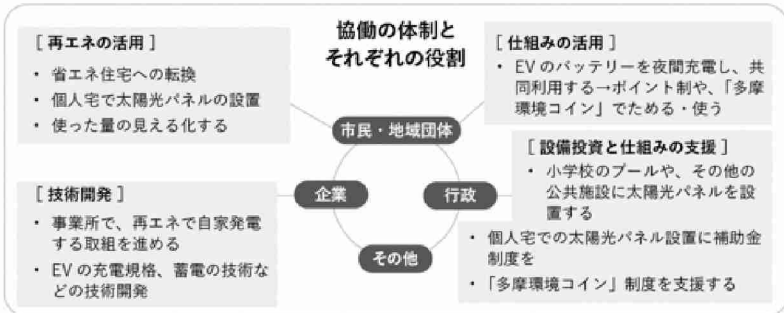
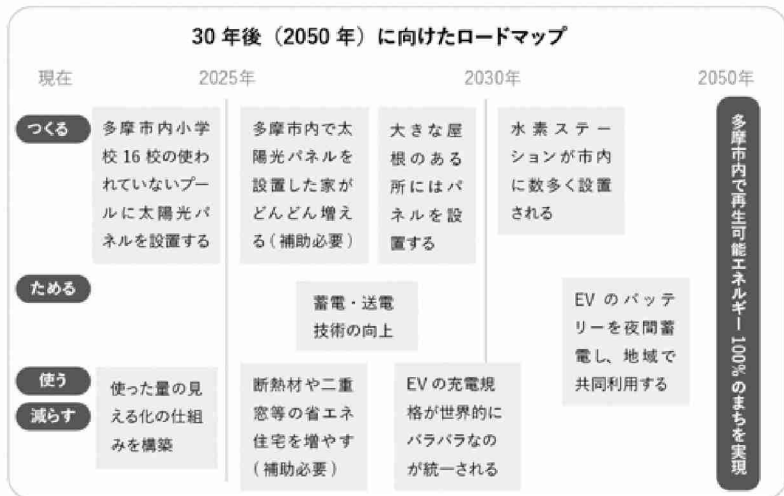
追加意見の参考）
第1回の将来イメージより

どのような内容にするか、要検討

提言に向けたグループからの提案：

私たち気候市民会議は、

- ・ クリーンなエネルギーへの転換を図るため、多摩市内で再生可能エネルギー利用100%のまちの実現を目指す
- ・ そのために、トライしたことに対してアップデートを絶やさず、PDCAを大切に、気候市民会議のような場での発信を大切に、無理なく、楽しく多くの市民の理解を得る



≡ 脱炭素なエネルギーに転換しているまち ≡

太陽光発電は、パネルの製造から廃棄までを考えて広めていく

- ・ 製造から廃棄まで考えることで、他の環境問題の対策を考える際のモデルになる
- ・ 製造については産業として育てる。廃棄については環境への影響を少なくする

取組提案

太陽光発電が広がる基準や仕組みをつくる

- ・ 太陽光パネルの設置や継続に対して補助金を給付する
- ・ 屋根を行政に貸出す仕組みをつくり、設置からメンテナンスまでを行政が担うことで、住民の負担が減らす
- ・ 耐震基準のように、パネルの設置や断熱機能などにおける基準を定めて義務化する
- ・ 多摩市の小学校16校の陽当たりが良い未利用プールを活用し、太陽光パネルを設置する（災害時にも役立つ）

水素ステーションを増やし、水素エネルギーを活用する

- ・ 水素ステーションを市内に数多く設置する

【関連テーマ：移動】

≡ 脱炭素なエネルギーを発電しているまち ≡

ごみやバイオマスなどを活用して、地域でエネルギーを発電し地域で有効に使う、エネルギーの地産地消の仕組みをつくる

- ・ 多摩市ではごみ処理場の熱をプールや公共施設などに利用している（再エネではなく火力だが、ごみは燃やさなくてはならない）
- ・ マンションで廃油を集めているが、すごい量が集まる →廃油をどうすることを提案する？

取組提案

人が集まるところに楽しく発電できる機能づくりと仮想通貨「多摩環境コイン」で分かりやすく効果を見える化する仕組みづくりを行う

- ・ サイクル発電、ランニング発電、トランポリン発電、お散歩発電など、様々な「遊び」を使って発電を可視化し、楽しくする
- ・ 環境コインやポイント制で省エネ+蓄エネの取組を進める
- ・ 家庭での電気の消費量も家庭内で見える化できる仕組みを取り入れる（例：電気を使いすぎた息子のおこづかいを減らす）

≡ エネルギー消費が少なく、エネルギーをためているまち ≡

省エネ+蓄エネの取組を進める

- ・ EVのバッテリーを地域の人たちで共同利用できるような仕組みをつくる
- ・ 家屋に断熱材を入れるだけで大分違う、二重窓も（効果的補助ありとする）
- ・ 省エネ家電に買い替え時に補助する
- ・ グリーンカーテンの取組を進める

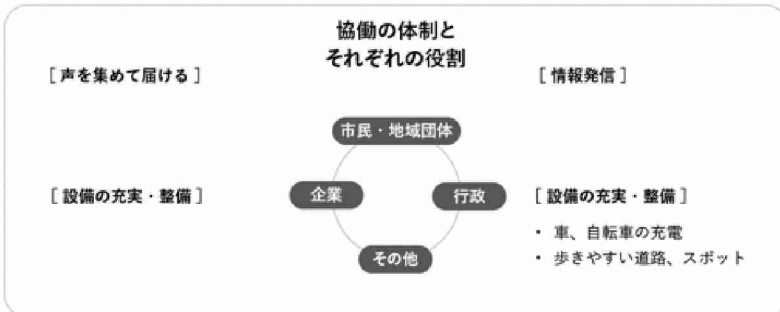
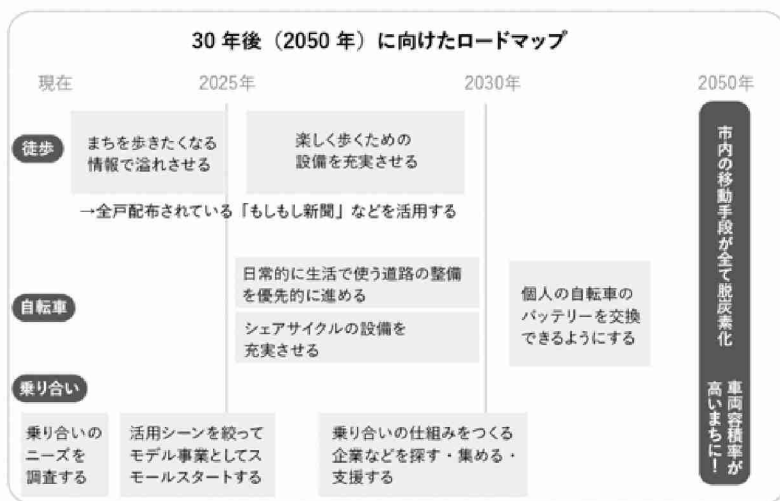
【関連テーマ：移動、暮らし・住環境】

≡ 歩き・自転車で暮らしやすい、コンパクトなまち ≡

提言に向けたグループからの提案：

私たち気候市民会議は、

- ・ 市内の排出量が約 14% である移動は脱炭素に向けて大事な分野だと考える
- ・ 市内の移動手段の全てが脱炭素化していることを目指す
- ・ 多様なライフステージやバックグラウンドを持った市民に合わせて、様々な移動の選択肢があることが大切だと考える



徒歩

楽しく歩いて移動できる環境をつくる

徒歩での移動を促すためのハード整備やソフト面の取組を並行して進める

ハード：

- ・ 歩きやすい舗装、休憩場所、ベンチなどを設置する

ソフト：

- ・ 多摩市は遊歩道が40km以上あり、公園、川、緑などの歩く環境が整っているため、その魅力を発信する
- ・ 見頃の花やその場の魅力など、楽しく歩けるコンテンツや楽しみ方を伝える
- ・ 他都市に出かけなくても多摩市内で楽しめる、公園や緑の資源を活かしたコンテンツを整える

【関連テーマ：教育・情報発信】

なるべく歩いて移動する

- ・ 脱炭素だけではなく、健康づくりにも良い徒歩を、個人の取組として心がける

取組提案

自転車

車の利用を減らし、なるべく公共交通や自転車を使う

- ・ 近隣へは徒歩や自転車で行く
- ・ 遠方には自転車、バスや電車で移動する。最終手段として、車を使う
- ・ 電車に自転車を乗せられるようにする

自転車道を整備する

- ・ 本格的なロードサイクルより、一般市民が日々の生活で安心して自転車に乗れるように道路環境を整備する
- ・ ポールなど立てて、車とより分離し、安全に乗れるようにする

自転車のシェアリングスポットを増やして便利にすることでシェアリングを増やす

- ・ 住宅地にスポットを増やすことで利便性を高める（駅前などの便利な場所には十分にあるが、生活圏の中にはない）
- ・ 地域コミュニティの拠点とシェアリングスポットを組み合わせることで、口コミで広げられる
- ・ 市民への特典など利用を促すインセンティブを提供する

≡ CO₂を排出しない手段で移動している ≡

車移動

乗り合いで、排出量を減らす

- ・ 乗り合い/ライドシェアを可能にする環境や制度を整える
- ・ 実現方法の検討、インセンティブなどの仕組みづくり、タクシー会社との連携が必要
- ・ ベンチャー企業や起業家の協力、市・市民による投資が必要

取組提案

車を利用する場合はエコドライブし、環境に配慮した車を選ぶ

- ・ 運転の仕方を変えて、すぐに効果を出す
- ・ 環境に配慮した車の所有や環境の整備は、個人の責任ではなく、まち全体の責任として捉える
- ・ 自宅でも充電できるように支援する

自転車

個人が所有する電動自転車のバッテリーを太陽光発電で充電できるスポットをつくる

- ・ すでに太陽光発電をしている学校などにモデル事業として設置する
- ・ 多摩市全体を発電所・電力供給源にする多摩モデルをつくる
- ・ 充電場所：団地・集合住宅・住まい、駅、学校、商業施設、公共施設など
- ・ 将来的には、バッテリーを交換できる仕組みを開発する

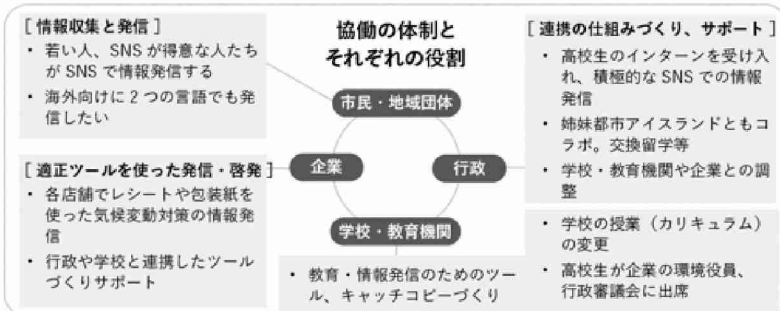
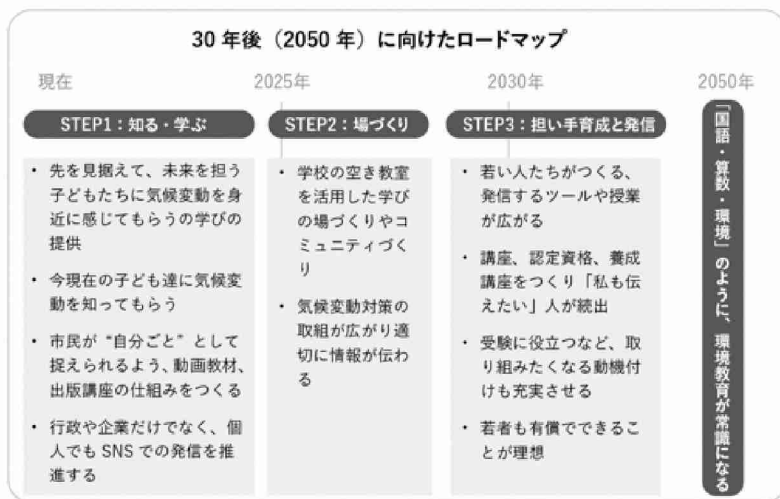
聖蹟桜ヶ丘と多摩センターの間に若者が担う人力車を走らせ、観光も呼び込む

- ・ 聖蹟桜ヶ丘と多摩センターを結ぶ人力

提言に向けたグループからの提案：

私たち気候市民会議は、

- ・ 気候変動対策の多様なテーマのなかで、すぐに取り組めて重要と位置付けられる教育・情報発信を先んじて取り組み、2050年に向けたアクションの土台とする
- ・ 気候市民会議で学んだことや大切なこと視点を次のステップに進める、多くの市民に広げていくことが大切であると考え
- ・ 自分の意識を変えていくマインドセットや学校と連携した教育・情報発信を目指す



一人ひとりが気候変動対策を自分ごととして捉えている

取組提案

様々な視点で脱炭素の実現に向けた正しい情報・選択技を市民、企業、行政、**教育機関**で共有する

- ・ 脱炭素の実現に向けて、何が正しいかわからない人へのアプローチとして、実態や最新のアクションの理解を深めることが大切
- ・ 深い議論やコミュニケーションを経ることでマインドチェンジする
- ・ 正しい情報や知識を得ることで市民が、企業や行政に関わるきっかけにする

まずは自分の生活のことを“知る”ことから始めて排出量を意識する

- ・ 家族間、親子間で情報共有するなど、気候変動の現状や自分たちの生活の実態を把握する
- ・ 食べ残し、買いすぎ、リサイクル、節水・節電、移動など、自分の生活で楽しめること、プラスになることから行動する
- ・ 自らの行動が料金の節約や健康づくりにもつながり、モチベーションが維持できることが大切

小中学校から環境や気候変動についての教育が充実し情報発信を積極的に行っている

取組提案

教育機関と連携し、脱炭素について知る・学ぶ・考える場やツールをつくり、コミュニティづくりにもつなげる

- ・ 高校生がつくる気候変動ゲームを小学校の授業で実践するような、小学校・中学校・高校の教育現場で活用できる場やツールをつくる
- ・ 学生、大人、子ども向けでT-danceのような動画をコンペで募集するなど、SNSやYouTube、CM等のメディアを活用した情報発信を行う
- ・ 学校単位でなく、ALL多摩の生徒会で取り組むなど、各教育機関同士が連携し、学校の授業（カリキュラム）で取り組みやすくなるような仕組みをつくる

SNSで多摩市気候市民会議を国内外に宣伝し、将来的に環境や気候変動に関心のある市民が興味を持ってくれるように発信する

- ・ 多摩市での気候変動の楽しそうな取組を発信し、ブランディングする

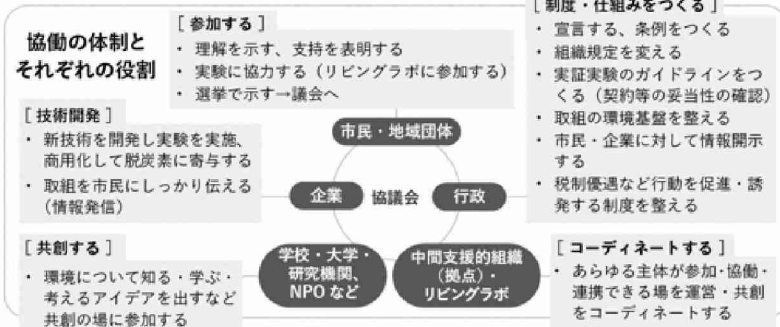
国内外に向けた多摩市大人の見学ツアーで「環境都市多摩」をアピールする

- ・ エコプラザ、ダストシュート、清掃工場、市庁舎改修を見学し、海外を含む他都市にアピールしたうえで取組を推進する
- ・ 街路灯のソーラー化、人感センサーによる省エネ化
- ・ 海外への発信が、更なるネットワークやムーブメントづくりにつなげる

提言に向けたグループからの提案：

私たち気候市民会議は、

- ・ 1人1人が当事者として、将来世代を含めて暮らしが豊かに、持続可能な都市になっていくように、
- ・ 市民、行政、企業、学校など、あらゆる主体が参加・協働・連携して共創し続け、
- ・ 新しい技術や社会の仕組みの実験的な取組によって、
- ・ イノベーションや新技術による脱炭素社会を実現させる試みを応援し共に進める



企業や大学等との連携を活かして 気候変動対策を加速させている

グリーンTRANSフォーメーション（GX）を応援・支える

- 「CO₂削減」の技術会社に投資したり、ユーザーになるなどして、協力・応援する
- ・ GXに絡んだ新しい取組に理解を示し、応援していることを伝える
 - ・ 株主になるなどして、企業を応援する
 - ・ 地産地消のエネルギーのユーザーになる
 - ・ 社会実験などに参加・協力する
 - ・ 個人も起業、商品化、サービス化して環境で儲ける

新技術を持つ脱炭素に取り組む優良事業者への法人税減免などの優遇措置、社会基盤を整備する

- ・ ごみの分別による再資源化・エネルギー化、バイオマス発電、再エネ技術を導入する企業を誘致する
- ・ 個人の脱炭素行動を誘発するポイント制や、事業者向けの税制免除・優遇措置を設ける
- ・ GX投資の利益に減免して個人の資産形成もはかる
- ・ 廃校や移転跡地を活用し、まちの機能更新をはかる
- ・ 若い人や研究者などの転入を促進する

取組提案

「炭素税」のように、CO₂排出量を商品価値と連動させる

- ・ 容器包装・商品の製造、消費のCO₂排出量に応じた税金の課金（例：ごみ袋有料化）

【関連テーマ：ごみ・資源循環】

環境研究都市

今はない新技術を生み出す環境研究都市づくり“Test Town TAMA”として、研究機関等を誘致し、大学等と連携して社会実験や取組を実施する

- ・ 住宅地としてエネルギー・食料を消費するだけの「ベッドタウン」を付加価値創造のまちにする
- ・ 実証実験の受け皿、情報発信の拠点となる「ラボ」をつくり、市民・行政・企業・学校などが参加して中間的組織が運営する
- ・ 多摩ニュータウンの団地更新とともに、新しい活用の実験をする
- ・ まち全体にスマートグリッドという新技術を導入、地域内に電気の発電と配送網を整備するエリアを設ける
- ・ 汚れたプラスチックを再生するなどごみの有効活用をはかる実験的な取組をする
- ・ 期間、エリアを限定してペットボトル飲料の販売禁止などを試行してみる
- ・ 個人・事業者のCO₂排出量を一瞬で見える化する技術を導入する
- ・ 先進的な取組で有名になり、シビックプライドの醸成につながる

【関連テーマ：全テーマ】

参考 具体策への評価アンケート結果

実施概要

目的：脱炭素に向けて、多摩市ではどのような将来像を描き、どのような具体策を実施すべきかをまとめていくために実施

回答期間：2023年6月23日（金）～7月1日（土）（9日間）

対象：多摩市気候市民会議 参加者

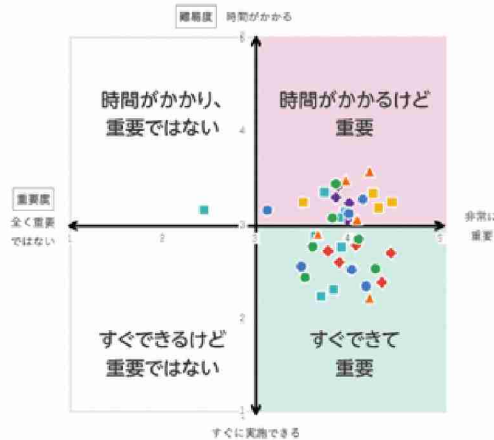
回答数：33件

形式：オンライン（一部手書き記入）

内容：

- ・第2回・第3回でまとめた「具体策」のアイデアについて、それぞれの重要度や難易度について評価
- ・関心テーマの選択

全取組提案の重要度と難易度




全取組提案の重要度・難易度を3つの分類に整理しました

テーマ別提案の取組提案は、アンケート評価結果の分析を元に分類しています。



多摩市気候市民会議にご協力いただいた皆様

- ・ 様々な講師をお招きして、気候変動の世界的な現状、多摩市での実態や、地域における活動について学んだ

| | | | | |
|---|---|--|--|--|
|  江守 正多 東京大学未来ビジョン 研究センター教授 国立環境研究所上級 主席研究員 |  棚橋 乾 元多摩市立小学校校長 |  山下 紀明 多摩市みどりと環境審議会 地球環境分科会会長 特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所 (ISEP) 理事・主任研究員 |  金子 貴代 再エネ100 宣言 RE Action 事務局 ネットゼロリンク 合同会社 代表 | |
|  たまごみ会議 江川 美穂子 様 |  多摩市水辺の案検運営協議会 会長 西 厚 様 |  よみがえれ、大栗川を 楽しむ会 事務局メンバー 小山 貴弓 様 |  多摩グリーンボランティア 森木会 名誉会長 川添 修 様 |  多摩市若者会議 高野 義裕 様 |

参考 多摩市気候市民会議のプロセス

概要

- ・ 多摩市役所主催
- ・ 無作為抽出で選ばれた 2,000 人の市民から参加を希望した 45 名の市民
- ・ さまざまな年代が集まって、多摩市の気候変動対策や取組について全5回にわたって議論を重ねた

「市民提案」ができるまで

気候市民会議による市民提案は、無作為抽出で選ばれ、集まった多摩市の気候変動対策に関心を持つ計5回の



まちの将来像を描く

30年後に目指したい、多摩市の環境と社会のイメージを出し合いました。

脱炭素に向けた具体策を考える

個人ができる取組やまちに必要なしくみから、脱炭素に向けた具体策を検討しました。

アイデアを評価する

第3回と第4回の間に、具体策のアイデアに対して、重要度と難易度を評価するアンケートを実施しました。



テーマごとに提案を深める

30年後に目指したい、多摩市の環境と社会のイメージを出し合いました。

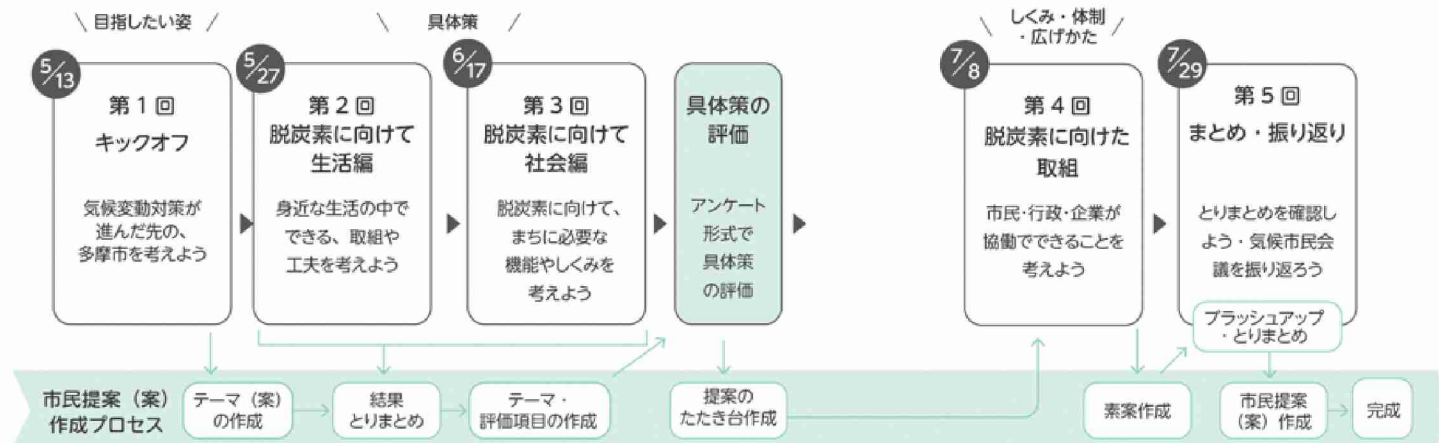
まとめ

個人ができる取組やまちに必要なしくみから、脱炭素に向けた具体策を検討しました。



各回のまとめ
具体的な
アイデアの詳細

<https://www.city.tama.lg.jp/kurashi/kankyo/hozen/1010569/1011170.html>



「次期多摩市
みどりと環境
基本計画」
への反映
2023年XX月頃予定



グループ ワーク



テーマに分かれて議論していきます

前回と同じ、関心分野をもとに、グループ分けしています

1G
食・消費

2G
ごみ・資源循環

3G
住まい・
暮らし・健康

4G
エネルギー

5G
移動

7G
イノベーション・
新技術・研究

6G
学び・情報発信

市民提案を確認しよう

全体について

全体方針

1. 脱炭素の実現とともに豊かな暮らしを実現しよう

- ・ 気候変動対策をすることで、みんなが笑顔になる
- ・ 楽しい気持ちで、我慢せずに継続できる対策を進める

2. みどり豊かな環境を活かそう

- ・ 多摩市の魅力でもある「人工と自然の緑」を楽しみながら活用する
- ・ 人間と動植物が共存しつつ経済が発展しているまちに

3. 協働で実施しよう

- ・ 地域コミュニティが世代を越えて、緑の保全や管理、気候変動対策を推進する
- ・ 住民、企業、行政など様々な主体がそれぞれの役割を果たすとともに、協力しながら一緒にまち全体に対策を広げる

4. みんなが誇りを持てるまちにしよう

- ・ 気候変動対策で若い人に「住みたい!」と思ってもらえる多摩市に
- ・ 多摩市の暮らしを、クールでかっこいい新たなライフスタイルとして広げていく

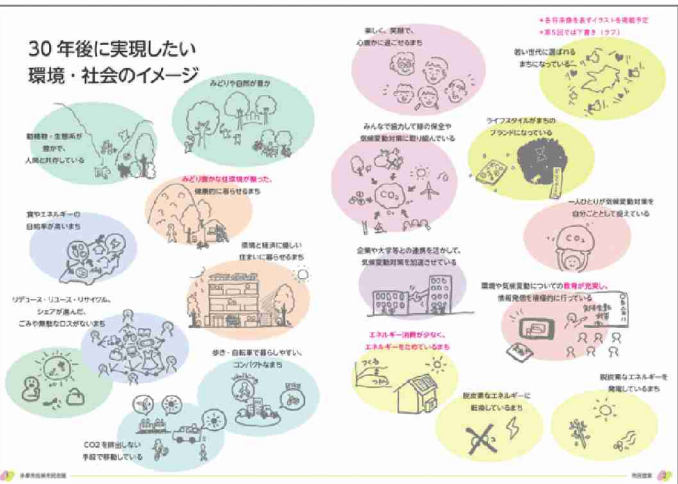
テーマについて

食・消費

提言に向けたグループからの提案:

私たち気候市民会議は、

- ・ 次の世代のことを考えた選択をするよう、一人一人の意識を改革していくことを大切にす
- ・ 食と消費からカーボンニュートラルにインパクトを与えることを目指す
- ・ 行政主導で、企業の行動を変える仕組みづくりを進めること、環境に与える影響について企業の情報公開を求める



食やエネルギーの自給率が高いまち

- ・ 地産地消や地元産品を増やすことで物産消費、CO2削減につながる。地域の経済がよくなる
- ・ 多摩市で地産地消の割合は100%の自給率を目指す
- ・ 地元産品や地元産品の消費はスーパーでも行われているので、広げよう
- ・ 多摩市が地元産品の消費(コミュニティセンターや環境課等)を促す、様々な取り組み(「食・シフト」)で進めていく

リデュース・リユース・リサイクル、シェアが進んだごみや無駄なロスがないまち

- ・ 資源の長寿命・耐久化により、大量生産・大量消費社会からの転換を図る(GDPに貢献しない消費)
- ・ 資源の長寿命・耐久化により、大量生産・大量消費社会からの転換を図る(GDPに貢献しない消費)
- ・ 資源の長寿命・耐久化により、大量生産・大量消費社会からの転換を図る(GDPに貢献しない消費)

ごみを減らす

- ・ 資源の長寿命・耐久化により、大量生産・大量消費社会からの転換を図る(GDPに貢献しない消費)
- ・ 資源の長寿命・耐久化により、大量生産・大量消費社会からの転換を図る(GDPに貢献しない消費)

確認のポイント

- 記載されている内容で良いですか？
内容に漏れはないですか？

→他のグループからもらった意見や、
第2回・第3回のまとめも参考にしましょう！

- 前回、深められなかった内容は
ありますか？

→ある場合は、追加してください

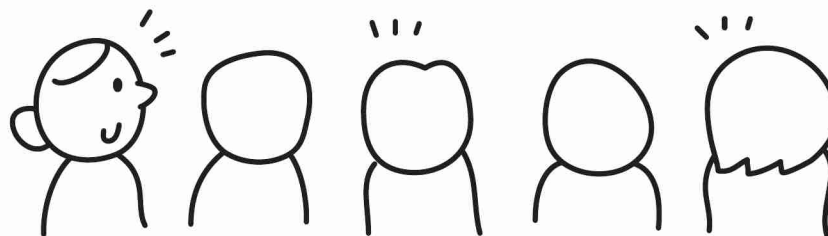
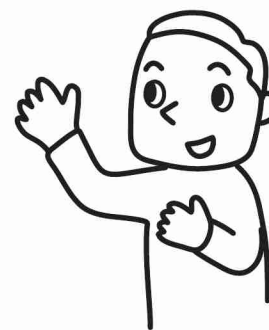
各グループの成果の共有

各グループで取りまとめた
グループワークの成果を発表しよう

全体について

テーマについて

私たちの
グループでは・・・




全体議論：市民提案をとりまとめよう


- ・全体で話し合うべきことは？
- ・他のグループの内容への質問は？

| | | |
|--|--------|--|
| | | |
| | 全体について | |
| | | |

| | | |
|--|---------|--|
| | | |
| | テーマについて | |
| | | |



グループ
ワーク
スタート！






休憩






今後の ご案内





總評





市長挨撈

